

IR 活動が多角化企業の企業価値に与える影響

住友 秀旭

目 次

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 先行研究のレビューと仮説の導出 3. リサーチデザイン | <ol style="list-style-type: none"> 4. 検証：IR活動が多角化企業の企業価値に与える影響 5. 頑健性チェックと分析結果の解釈 6. おわりに |
|--|--|

本稿はIR活動が事業多角化企業の企業価値に与える影響について分析している。分析の結果、サンプル全体におけるIR活動が企業価値に与える影響をコントロールした上で、積極的なIR活動と多角化企業の企業価値との間に正の関係があることが明らかになった。また、同じようにコントロールした上で、消極的なIR活動と多角化企業の企業価値との間に負の関係があることが明らかになった。

1. はじめに

本稿は、IR活動が多角化企業の企業価値に与える影響について分析したものである。本稿では、日本IR協議会「第20回IR活動の実態調査（2013年4月）」（以下、「実態調査」と呼ぶ）の調査結果（注1）を使用し、多角化企業のIR活動の積極度合いを測り、IR活動が多角化企業の企業価値にどのような影響を与えているかを分析している。

先行研究において、IR活動が多角化企業の企業価値に与える影響について考察を行ったものは、筆者がサーベイする限り見当たらなかった。本稿

では、多角化企業における事業の複雑さによって生じる、企業と資本市場との間の情報の非対称性に焦点を当て、その情報の非対称性を解消すると期待されているIR活動が、多角化企業の企業価値に与える影響を実証的アプローチによって明らかにする。多角化企業におけるIR活動の実態から本稿の結論が導き出されていることから、本稿には独自の貢献があると思われる。

本稿は次のように構成されている。まず、第2章では先行研究のレビューを行い、仮説を導出し、第3章ではリサーチデザインを設定する。次の第4章では、前章で設定したリサーチデザインに基



住友 秀旭（すみとも ひであき）

株式会社 東芝 セミコンダクター & ストレージ社 大分工場勤務。

2012年福島大学共生システム理工学類卒業。14年一橋大学大学院商学研究科経営学修士コース修了。同年7月より現職。